



Title	46 Rietvelds Chairs : 縮尺1/6－46脚のリートフェルトの椅子の制作
Author(s)	佐々木, 一泰
Citation	デザイン理論. 2023, 81, p. 62-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91068
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

46 Rietvelds Chairs

縮尺1/6-46脚のリートフェルトの椅子の制作

佐々木 一泰 滋賀県立大学

はじめに

この作品展示は、近代オランダを代表する建築家であり家具デザイナーでもある G. Th. リートフェルト（Geritt Thomas Rietveld, 1888-1964）の椅子のデザインについて、縮尺 1/6 の制作模型を通じて変遷を明らかにするものである。リートフェルトは家具職人の息子として生まれ、生涯 377 件の家具デザインを行ったとされ、成人用一人掛けの椅子は 124 脚のデザインが確認できる。

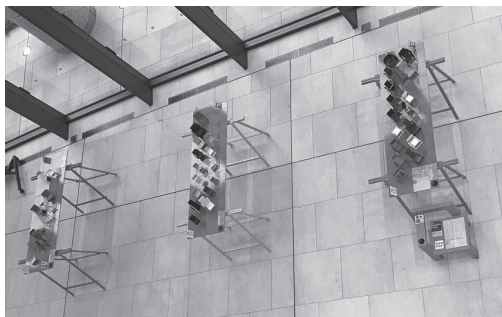
リートフェルトの家具や建築は、デ・スタイルにおける活動は広く知られているが、その後の活動は紹介される機会は少ない。今回は 3 つの時期に分け、それぞれの時代の代表的な成人用一人掛け椅子を紹介した。まず家具職人の息子として生まれ、ユトレヒト工芸学校の夜間授業を通じペルラーヘヤクラールハマーからの影響を受け、その後デ・スタイルに加わり理念をデザインで具現化した 1929 年（41 歳）までの 17 脚。次に 1931 年に終焉するデ・スタイルから世界恐慌、そして第二次世界大戦がはじまり、占領下のオランダでもデザインを行った 1945 年（57 歳）までの 16 脚。そして戦後復興とデ・スタイルとリートフェルトの再評価、息子たちと協働する 1964 年（76 歳）までの 13 脚。計 46 脚を制作した。

制作の方法と著作権について

リートフェルトの椅子の模型（ミニチュア）は、世界中に愛好者が確認できる。主な理由として、シュレーダー夫人らが収集していた図面資料がアーカイブとして整備されたこと、D. バローニに

よる『リートフェルトの家具』などの先行研究、デ・スタイルの時代を中心に家具の制作方法をまとめた『How to make Rietveld furniture』が出版されたことなどが挙げられる。また、リートフェルトの家具が大量生産よりも、個人間で多く制作が依頼されたことから、その後所有者が博物館へ寄贈し、試作品を含め、様々な椅子の現物資料が現存していることも特徴として挙げられる。これらの資料から制作を行った。縮尺の選択にあたっては、メートルやインチなどが混在しても単位の調整が容易な、1/6 スケールを選択した。

制作に先立って、リートフェルトのデザインの権利を所有するリートフェルト財団（Rietveld Foundation）に確認を行った。椅子の複製模型の制作および、学会および非商用の展覧会での展示に対して、著作権の許可を得ることを求められた。現在リートフェルトに関する著作権は PICTORIGHT（VISUAL COPYRIGHTS NETHERLANDS）に管理の委託がされている。PICTORORIGHT は特に視角表現の芸術作品を一括管理するオランダの団体であり、著作権協会国際連合（CISAC）のメンバーでもある。今回は財団と管理団体、そして日本の姉妹組織である日本美術著作権協会（JASPAR）の三者間の調整を行い、許可を得ている。現在「自分で使用するための複製」に関してはオランダ著作権法 16b 条に例外として認められ、財団のホームページにも示されている。しかしジェネリック商品やデザインの著作権を取り巻く状況など、各国の対応も異なるため、状況の紹介と今後の議論が必要だと考える。



制作を終えて

もともとコロナ禍での巣ごもりから始めた制作であるが、これまでリートフェルトの建築構法の研究を進めてきた中で、一度家具をしっかりと把握したいとの思いから、46脚の椅子全てを自らの手で制作することにした。制作を経て、いくつか気がついたことがある。第一に彼のキャリアを通じて、制作方法がいくつかに変化している事である。これは一般的な建築家が手掛けた家具や北欧などの家具デザイナーとは異なる。そのことは、職人的に材料や構法を突き詰めるのではなく、実験的要素が強く、アーティスティックに様々な材料を試行錯誤する傾向を読み取ることができる。第二に手で考えるデザイナーであったことを改めて気づかされた事である。リートフェルトの家具のスタディ模型はシュレーダー夫人らの尽力により現在まで遺されており、彼の思考の一端をうかがい知ることができる。そこでつくられた模型は厚紙や針金などを用いた簡単なスタディモデルであり、その後図面化はされるものの、精密な模型はつくられた形跡は見当たらない。そのため今回の

制作にあたり、図面とモデルと実物が微妙に異なる箇所がいくつかみられた。また家具ごとで用紙のフォーマットを含めた図面の作図方法も異なっており、モデルやスケッチが先行している事の表れかと考える。制作に関して、図面資料および写真資料、これまでの渡蘭での現物調査から、特定のモデルの再現ではなく総合的に制作している。塗装や素材に関しても、当時の手法に配慮した。

図面が確認されない作品も、写真資料および記録された測定数値から図面を再作図した。また再作図から 10cm グリッドを使用した設計方法であることが確認され、座面と背もたれの関係も、相似関係とグリッドの対角線による調整であることが確認された。また各地域で制作出来る構法の選択など、生産の特徴も明らかになった。これらの知見は研究を進め、いずれ発表を行いたい。

おわりに

大会および、その後企画した展覧会で様々な研究者や専門家と議論出来たことは貴重な機会であった。また、本展示で息子のヘリット Jr. (Gerrit Rietveld Jr., 1920–1961) についても紹介する機会を得た。現在報告書を作成中であり、今後オランダ本国の研究者との交流も進めていきたい。また制作データなどは web で公開予定である。

主要参考文献

- 1 奥佳弥『リートフェルトの建築』TOTO 出版, 2009
- 2 ダニエーレ・パローニ (石上申八郎訳)『リートフェルトの家具』A.D.A. Edita Tokyo, 1979
- 3 R.Dettingmeijer, M.van Thoor, I.van Zijl (ed.), *Rietveld's universe*, Nai Rotterdam, 2012
- 4 Marijke Kuper, *De stoel van Rietveld/Rietveld's Chair*, Nai Rotterdam, 2011
- 5 Peter vöge, *The complete of Rietveld furniture*, 010 publishers, Rotterdam, 1993
- 6 Peter Drijver, Johannes Niemeijer, *Rietveld meubels om zelf te maken / How to construct Rietveld furniture*, Thoth Bussum, 1989